

令和2年度 第1回恵那市総合計画推進市民委員会 会議録

日時：令和2年8月4日（火）午後3時～

場所：恵那市共同福祉会館 集会室

1. 開会
2. 委嘱書の交付
3. 自己紹介
4. 会長・副会長の選任
5. 副市長挨拶
6. 議事
 - (1) 総合計画推進市民委員会委員の役割について
 - (2) 総合計画の進行管理について
 - (3) 地方創生交付金事業の事業評価について
7. その他
8. 閉会
9. 会議公開・非公開・・・公開
10. 出席者の数・・・13人中13人（以下のとおり）

	氏名	選出団体等	備考	出席
1	青山 恵美子	恵那市民生委員児童員協議会		出席
2	市川 祥子	恵那商工会議所		出席
3	岩井 慶次	恵那市防災研究会		出席
4	小澤 清子	公募		出席
5	紀岡 伸征	恵那市社会福祉協議会		出席
6	芝田 幸代	恵那市恵南商工会		出席
7	鈴木 実	恵那職業安定所		出席
8	中島 豊己	十六銀行恵那支店		出席
9	西尾 愛子	公募		出席
10	西尾 ひろみ	恵那市農業員会		出席
11	服部 敦	中部大学	会長	出席
12	平林 道博	恵那市地域自治区会長会議	副会長	出席
13	村松 訓子	恵那市教育委員		出席

11. 傍聴・・・1人

1. 開会

■事務局（進行） これより開会する。私は本日の進行の企画課長の和田です。本日の会議はコロナウイルス対策として体温測定、マスクの着用に御協力いただきありがとうございます。座席も変則的な配置であることを御理解ください。本日の会議は原則公開で、会議録も公表する。

本日の会議は事務局側の説明は極力簡単にする。皆様の活発な意見をいただきたい。資料はボリュームが大きいので会議時間は1時間30分を目標にする。

2. 委嘱書の交付

■事務局（進行） 机上に委嘱状がある。本来なら一人一人に渡すが、時間の関係で机上配布とする。

3. 自己紹介

■事務局（進行） 自己紹介。簡単をお願いします。名簿順をお願いします。

■青山委員 民生委員・児童委員協議会から参りました青山恵美子です。よろしくお願ひします。

■市川委員 遅参して失礼しました。恵那商工会議所から事業所として参加する。市川祥子です。よろしくお願ひします。

■岩井委員 恵那市防災研究会の会長をしている。よろしくお願ひします。

■小澤委員 小澤清子です。偶然見た公報で応募した。普段は学童、子ども教室、コミュニティースクールに携わっている。

■紀岡委員 恵那市社会福祉協議会の紀岡です。よろしくお願ひします。

■芝田委員 恵南商工会女性部部长の芝田です。よろしくお願ひします。

■鈴村委員 ハローワーク恵那の鈴村です。よろしくお願ひします。

■中島委員 地元金融機関を代表して十六銀行恵那支店の支店長をしている中島です。よろしくお願ひします。

■西尾委員 介護施設で働いている。それまでは学童保育支援をしていた。今後福祉施設、介護の方面で活動したいと思って応募した。よろしくお願ひします。

■西尾委員 恵那市農業委員会の西尾です。よろしくお願ひします。

■服部委員 中部大学の教授をしている。まちづくりが専門で、服部と申します。よろしくお願ひします。

■平林委員 恵那市には地域自治区が13あることをこの5月に初めて知った。退職して

思うことは、本当に地域のことや恵那市のことを知らないと恥ずかしく思っている。少しでも関心を持っていけたらと思っている。平林です。よろしくお願いします。

■村松委員 恵那市教育委員の代表として参加する。村松訓子です。よろしくお願いします。

4. 会長・副会長の選任

■事務局（進行） 会長、副会長の選任。恵那市総合計画推進市民委員会設置要綱第 5 条で、会長は委員からの互選、副会長は会長が指名する。会長についていかがするか。

■委員 事務局から案はないか。

■事務局（進行） あらかじめ事務局で案がある。会長に中部大学の服部敦さんを推薦する。いかがか。

[拍手する者あり]

■事務局（進行） 皆様から承認いただいたので服部委員は席までお願いします。

副会長を会長から指名いただきたい。

■会長 地域自治区会長会議の平林さんをお願いしたい。いかがか。

[拍手する者あり]

■事務局（進行） 平林様、よろしくお願いします。

会長、副会長からもう一度御挨拶をいただきたい。

■会長 総合計画はどの自治体もほぼ定めている。自治体にとって一番根本的な大事な計画で、すべてにわたって定められている基本的な計画だ。ほぼ 10 年間にわたる長い計画になっていて、いったん作って終わりではなくて、毎年実施状況を点検評価しないと意味のある計画にならないので、点検評価の役割ということでこの推進市民会議があると聞いている。後ほど役割については説明があると思う。そういう重要な役割を持った委員会ということで、皆様からの積極的な発言をいただき、よりよい施策が進められていくようにしていきたい。活発な意見交換をしていただきたい。

一方でコロナの状況なのでできるだけ効率的な運営に心掛けていきたい。

本日はよろしくお願いします。

■副会長 上場企業は社外取締役の制度を取り入れてコンプライアンス等の向上に努めている。この会議は私はまだよく分からないが、自分の思いとしては、行政の方々が専門的な目で施策を作ったと思うので、それについて市民の目、客観的な目でアクセル、ブレーキで恵那市の行政が進むようにしていけたらいいと思う。力不足だが一生懸命やる。

5. 副市長挨拶

■事務局（進行） 副市長より挨拶申し上げる。

■副市長 皆さん、御出席ありがとうございます。会長からの挨拶にあったが、この前段に今日 1 時から総合計画審議会を開催した。総合計画審議会は、今日審議する前に元の計画を作られており、その座長をいただいているのが服部先生だ。平林さんも審議会の委員ということで出席されている。進行をよろしく願います。

計画を策定したが、コロナウイルスが発生して世の中が一変した。たとえば、恵那市の中でもテレワークという言葉は死語のようで本当にやるとは実感してなかったが、実際にテレワークが進んできた。当初は 10 人ぐらい、今は 50 人ぐらいいる。自宅で仕事をしている。また、教育現場では、3 月から 3 カ月休んで、その中で話が出たのは、オンライン教育をもっと推進してほしいということだ。オンライン教育というのはずっと先に進めていくような話だったが、第 2、第 3 波のコロナウイルスが発生すれば、すぐにやらなければいけないので、今では市としてはかなり重きを置いて進んでいこうと思っている。コロナウイルス前から総合計画を立てていたのだから、一変した時代に対応するには、指標、施策をかなり変更せざるを得ない。可能性がある市民の立場の意見をこの中に入れていただき、今後の計画をどうしていくか、審議していただきたい。

7 月 23、24 日に恵那峡ガーデンでイベントを行った。ビアガーデンを開催した。その従事者、助っ人のような形で参加した人がコロナウイルスに感染していた。恵那保健所とその対応をして、濃厚接触者がいないかということで、検査したところ、すべての人が陰性だったので、ぜひその辺は御安心いただきたい。風評被害が出ている。問い合わせもある。そこは強く訴えておきたい。

プレミアム商品券。7 月 15 日、19 日に 3 割のプレミアムを載せて販売したところ 1 日で売り切れた。あるいは、希望したのに手に入らなかったという声がたくさんあった。市としてはどうするか考えている。再発行したい。すでに券のある人には辞退していただき、待っている人に手渡せるように考えていきたい。

進行管理については委員の活発な意見をいただきよりよい施策を打っていききたい。よろしく願います。

■事務局（進行） これより議事に入る。進行を服部会長に願います。

6. 議事

(1) 総合計画推進市民委員会委員の役割について

■会長 議事は 3 つある。1 つ目、この委員会の役割について、事務局からの説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

- 会長 委員会の役割について、確認、質問があれば。
なければ、この議事についてはこれまでとする。

(2) 総合計画の進行管理について

- 会長 事務局から説明をいただくが、長いので分割して説明していただく。
まず「安心」から。

[事務局から資料に基づき説明]

- 会長 質問、意見があれば。ここに書いてないことでもいい。
- 岩井委員 17 ページ、後半に防犯の要素がある。「②治安が悪いと感じている市民」で、アンケート自体が誰に対してなのかが分からない。我々は青色回転パトロールをやっており、子ども、街頭犯罪などをやっているが、特にネット社会でSNS、サイバーテロなどもあり、見えないこともいっぱいある。その部分のアンケートの取り方がどうかと気になる。今後そういうところもやっていただくと今後の方向性が出てくると思う。

19 ページ、防災で、Bという評価をいただいている。コロナ禍ということで少し申し上げたい。恵那市はコロナ対策の避難所運営が非常に厳しい。もう少しお金を入れるべきだと思う。そうしないと、地震で命が助かって避難所へ来てコロナに感染することが起こる可能性もある。それが起こらないように感染症予防を絶対やってほしい。今この時期なのでお金も投入しやすいと思うので頑張ってください。

- 事務局 アンケートについて。進行管理する上で毎年同じ項目でやっている。これからのアンケートの取り方について参考にする。

アンケートの取り方は、毎年同じ項目で 2500 名を対象にしている。トレンドを見るために、1 年 1 年違った項目でアンケートをするとその傾向が分からない。次回以降、ネット社会とかテロといったところにも記載するなどして、アンケートされる人がイメージしやすいような聞き方にしたい。岩井委員がおっしゃるように、この辺については、社会的なことがある。たとえば東日本大震災など大きな震災があったときにはこの辺の不安がどうか、社会的な大きな事件があったときは不安なところが上がったりしてしまうので、市の施策うんぬんよりも全体の社会的なところが影響してしまうという盲点、落ち度もある。この辺の指標の取り方について注意する。

- 会長 抽出対象者は毎年変わるんですね？ 毎年抽出して 2500 人選んでやっているということか。

- 事務局 そうだ。

■会長 コロナについて。

■事務局（総務部長） コロナというより、避難所の開設にかかわる中で、特に今コロナの対策が必要だということで岩井委員から御指摘があった。今年に入ってコロナの関係で、6月補正、9月補正で、徐々にではあるが対策は打つ。まず、接触を避けるということで、屋内にテントを張ったり、段ボールの仕切りを順次入れる。しかし、コロナの対策は、物的なものだけではない。そこに従事する職員や地元の人にガイドラインを市は作成している。それに基づいて、たとえば避難所に来られた方の熱を計って、熱のある人は別室に行く。その後すぐに医療関係に連絡する。こういう手順がある。そういった対策を今持っているが、これがすべてではないと考えている。これに対しては順次対策を講じていく。

■会長 そのほか。

■副会長 アンケートにかかわって質問する。市民の満足度が低くて「×」になっているものが多いと思う。17ページ、治安が悪いと感じている市民の割合が目標値よりも多い。この数字で、17.1というのを調べるだけではなく、どこに市民が治安が悪いと感じているか、たとえば夜間の照明が少ないからとか、そういったもう一步踏み込んだ質問をしないと、次のアンケートも重ねないと、いつまで経っても目標値を掲げているだけで、できませんでしたというだけになる。もう少し分析しないと毎年やっても向上しないと思う。

ほかの項目も、市民が良いと感じてないとか、その感覚がどこから出てきているかを物理的にしないといけないと思う。

もう一つ。これは令和元年度の評価だ。令和2年度の施策を作って動いている。終わったことを振り返りでやっても意味がない。2年度の施策にどうこれが反映されたか。タイムラグがあるからできないと思うが。

■事務局 1点目。アンケートの中に、なぜこうなったかという意見欄がある。今日の資料では表現できていないがつかめるようになっている。後ほど、アンケート結果という180ページぐらいのものがあるので、その内容を委員にも資料として示す。結果だけ出してどうだったかということは分かりにくい点があったので申し訳なかった。

もう一点。市民には昨年度の結果しか出していないが、こういったことを踏まえて、内部的には前年度の秋に今年度の新規事業などを抽出して精査して2年度の主要事業として上げている。この辺のサイクルもしっかりと説明しなくてはならないが、内部評価を得て今年度事業がある。今日は前年度の結果に基づいた評価を見せている。

■会長 おっしゃる通りタイムラグは出ている。令和元年度のデータに基づいて今年度審議するということは次年度の施策に反映することになるので、大きな意味ではそうなるし、今年度直せるところは受け止めて直していくところもある。昨年度のデータに基づいて御意見をいただき、今年度臨機応変に対応できるところは検討していただくとともに、次年度の新しい施策に反映していくというのが通常の流れだ。

■副会長 1ページ、③子育て環境が良いと感じている子育て中の市民の目標値がある。平成29年度は39%を掲げて24.5%、30年度は41%を掲げて25.8%、元年度は43%を掲げて29.7%。2年度は45%という目標数値を掲げているが、根拠は。それだけの施策を打

っているのか。とても 45%はできないような気がするが。

■副市長 実は総合計画の考え方で、今回平林さんを含めて審議していただいたのは総合計画の後期計画だ。令和 3 年からスタートする。5 年前の 28 年から総合計画の前期計画がスタートしていて、27 年度中までに総合計画が立てられていて、それぞれ目標値の設定は 27 年の市民意識調査をもって数字を掲げた。27 年度には子育て環境がいいと言われた方が 36.2%なので、それを下回る総合計画の指標はなかなか作りにくい。市民がより良くなっていくという数値を掲げるということから、各市民委員も含めて、最終的には 45%までもっていかうと言ったが、実際にこの数字をその経過年度でいじることはない。あくまでも目標値を設定してしまっているのだから、5 年間はかまわない。今回の後期計画もいったん数値が設定されると、5 年間はそれを掲げてそれに見合うような施策を打つ。目標値の設定の問題があったという指摘だと思うが、そういうことだ。

これをどう解決しようと思っているかというところ、施策評価は、数字は数字としても、市長、私、各部長が全員集まってこの施策評価一つ一つについて議論する。目標数値の設定が問題あることは除いて、なぜ上がらなかったのか、施策として、事業名の中に上がらなかった理由があるのではないかと、もっと違う施策があったのではないかと。ということを議論して後期計画について、令和 3 年度に向けて施策を打っていく。

■会長 ほかに意見があれば。

■小澤委員 普段恵那北小学校の学童保育に携わっている。安心して子どもを育てるところに今後生かしていただくといいと思うことがある。

新型コロナで休校になった途端、どこの学校も学童頼りだ。全国的にだと思う。恵那市の中で唯一学童を開かなかった。もともと子ども的人数も少ない、普段毎日学童に来る子は 4、5 名で、夏は 30 人近くになるが、小さな学童だ。数少ない、もしくは唯一の完全保護者運営だ。保護者が指導員を募集して給与計算をして税務署関係もしている。指導員が専任で運営している人がいない。プラス、指導員も常に不足している。地域のボランティアで、高齢の人が中心になって、もしくは地域外の元々教員をやっていたような人が指導員としている。コロナのことがあって、70 代の人に指導員で来てくれとは言えなかった。校長先生とも話をし、開けるのをやめた。そのときありがたかった行政の対応は、振興事務所、コミュニティセンターで受け入れるということをして市として言ってくれた。コミュニティセンターに行っている子どもも 4、5 名だが、母親が沖縄から嫁に来たとか、自分の親はいない、頼れる親がない家庭も増えている。その後また長い休校が始まったとき、振興事務所に校長先生と一緒にお願いにも行ったし、教育委員会の方で学校開放の措置をしてくれた。それで、毎日ではなくても行っている子どももいた。途中からは夕方から学童を 2 時間やるなどした。運営がすごく不安定だ。ほかの学童も、3 月で休校に入った後、子どもたちが集団になって普通の学校と同じように遊んでいると聞いた。大丈夫かと思った。同時に、振興事務局、コミュニティセンターが地域にあるので、それと学校開放、街の中だと学童を利用できるのは 3 年生、4 年生までとなっていると思うので、こういったところをクリアできないととても安心して母親が働きに行けない。その辺を、恵那

北小学校だけではなく、今後休校が増える可能性がある中で、そういったことを常時運営の安定性も含めて入れていくといいと思う。

■会長 意見としていただくということでいいか。

■小澤委員 はい。

■教育長 3月2日から突然の休校になり、私たちもノウハウがなく手探りで、地域の人にも関係者にも助けていただいた。この後、今すでに苗木だとか、そういう話も出ているし、県内では小学校で出ているので、明日にでも出ても不思議ではなく、今情報収集をして、最も有効な方法を見出したいと思っている。ガイドラインは国・県のを参考にしながら作っている。市も予算を講じてくれ、やれることはやってくれている。もう一つは、家にいても学校と連絡を取りながら勉強できる環境を、どこの自治体よりも早くやるように精一杯の準備をしている。もうしばらく待ってほしい。年度内には何とか方向付けする。3学期からはやれるようになる。

■会長 それぞれの項目でたくさん言いたいことがあると思うが、いったん次の項目に移る。

快適について、事務局からの説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 意見、質問はあるか。

■市川委員 25ページ、伝統芸能。岩村のものが3つあるが、それ以外の伝統芸能で考えていることはあるか。たとえば大井栄舞とか。恵那峡にゆかりのある物語として気になる。

■事務局（教育委員会事務局長）教育委員会事務局 長谷川です。伝統芸能の、岩村、恵那の伝統芸能大会、文化振興以外のところかどうか。それ以外もか。

■市川委員 これ以外にないのか。

■事務局（教育委員会事務局長）特にこの部分を出してあるが、市内各地で伝わる歌舞伎、人形浄瑠璃、太鼓などの伝統芸能を発表する大会を開催し、というところでは、それぞれのところで伝統芸能をやっているものも活動としては支援している。特にこの3つをここでは上げている。

■岩井委員 66.2%を切って70%が目標になっているが、活動を地域でやっているが評価としてはDか。ちょっと厳しいような気がする。C、Bぐらいだと思う。

■事務局（教育委員会事務局長）この評価も、最初に副市長から話があったように、5年前に目標数値を決めてそこに達成しているかどうかというところで、達成していないところはDとしている。その中でも新たな取り組みなどが出てくるようなところではCに上げたらということもあるが、今回のところは、基準も達成していないところからDとしている。

■会長 指標に関しては達成してなくてもCかDか選べるので、前進しているか全く前進していないかということで、御意見としては前進していると捉えてもいいという意見なので、

それも踏まえて最終的な評価を検討してほしい。

■副市長 評価の仕方として、事務局の感覚的にCとかBというのはやめようということで、機械的に、市民意識調査で出た数字をそのまま当てはめる。その方が皆さんに理解されると思う。

■会長 機械的としても、一番最初に評価の表があり、達成しているか達成していないかは半数未満ということでCとDになるのではないか。

■岩井委員 何%ならDなのか。目標値 70%で、それに対して 66.2%で頑張っているんだったらDになると思うが、それはやっている人に非常に失礼だと思うが。見たらやる気をなくす。

■会長 25 ページの評価の話だと思う。それについては表紙の裏に基準があり、それで評価している。目標指標の半数未満はCかDで、あとは、その中で前進、改善していればC、まったく改善していなければD。そこに関してはどう捉えるかという問題なので、前進しているならC、全然だめならDだと思うが違うか。

■事務局 その通りだ。傾向を見ると、結果が下降しているのがDとなった。岩井委員の激励の言葉を励みにしたい。

■会長 委員からはそういう意見があったということをご心得させていただきたい。

■村松委員 28 ページ。移動手段を充実する。地域のくしばすや、よやくる号といったバス。地域にとっては貴重な交通手段なので、本数を増やしてほしいとか、もう少し遠くまで行ってほしいという声をよく聞いた。でも東鉄バスとの兼ね合いや運転手の都合で難しいということも聞いた。評価がDなので、今後どうするのか。せっかく子どもたちからネーミングを募って、地域を走る、お年寄りにとっては大切な足だ。

■会長 事務局。

■事務局 移動手段は市としても大きな課題と捉えている。市の内部の話をする、今まで観光交流課でしていた事務を、市の全域的な課題として企画に部署を変えた。移動手段は地域からも意見を非常に多くいただいているので、福祉、観光、通学など全体を捉えてより良い交通手段の体系をこれからとっていききたい。今年度から、公共交通会議を先月まです第1回目を行なった。月1回会議を開き、年内にある程度の新年度の事業を取りまとめたい。評価はDで厳しい。これをC、Bに向けて一生懸命やっていきたい。

■事務局 目標指数の持ち方が、地域内有償運送がカバーしている地域ということになっていた。令和元年度は2で、飯地の里山バス、くしばすだが、これ以外の地域で無償のボランティアの交通手段で、中野方のおきもりの送迎サービスがある。9月からは笠置でボランティアが個人の車で地区内の送迎をやる。地域としてはそれぞれで交通手段の課題を解決しようとしている。

■小澤委員 自然を守り生かす。私は恵那市には血縁、地縁がなく、愛知県から移住して10年経つ。本当にいい暮らしをさせていただいている。子どもにとってもすごく良かった。ただ、残念なのが、すごくいいところが生かされていない、もっと生かしたらいいと思うことがたくさんある。それぞれの地域でもたくさんあると思うが、私は恵那北小学校区の

久須見に住んでいるが、一つは笠置峡、オリンピックのメダルを狙う選手が合宿に選ぶ川で、海外にも自慢できる。笠置山のボルダリングも県外から登りに来るいい場所だそう。小学校では去年から 5、6 年生のカヌー体験が始まったがボルダリングはまだ一回もない。夏休みの講座ではあるが。クリスタルパークのスケートのように、小学校から全員カヌーに乗ったことがあるということや、今後オンラインの授業も大事だが、県外に出なくても市外に出なくても実体験できる機会を地域で広げていくことで、将来外に出て自信を持っていける、子どもたちに影響すると感じている。この機会を最大限生かして来年の施策に盛り込んでいただきたい。

■副市長 21 ページ①自然に愛着を持っている。評価の内容の最後に書いてあるが、山林に太陽光発電施設が設置される傾向が、28 年度まではいい数字だったが、それ以後どんどん下がっているのは、太陽光設置が盛んになっているということがある。これが市民アンケートの中で自然破壊に行っている。したがって一気に数字が悪くなっている要因になっている。

■会長 いただいた意見は前向きなものなので。

■教育長 まったくその通りで、私どもも精一杯そうしたいが、特に本年度はそれに逆行しており、義務教育の中で教科の指導 3 カ月分を何とかしないといけないということで頭がいっぱいだが、恵那市の元からあるいいものを子どもたちに体験させる。笠置峡ではボート、カヌーの子どもたちのクラブが発足し、指導者もあるので構築していきたい。そういう思いは強く持っている。

■会長 時間がないので 3 つ目の項目に行く。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 意見、質問があれば。

■紀岡委員 37 ページ。ボランティア活動に触れている。40 ページでもボランティア活動に触れている。社会福祉協議会では夏休みのボランティア体験ということで、中高生を対象に毎年福祉施設などでやっている。今年は新型コロナの関係で夏休み自体が短く、できていない。今年は協力をいただいて、中学生のアンケート調査を行なっている。この辺がこういう状況下でますます若者への働きかけが難しいと感じている。近年災害ボランティア、防災意識の高まりもあるので、そういうのもボランティア活動という捉え方で含めていただけるとありがたい。

■事務局 御意見を承った。参考にする。

■小澤委員 参考にしていただければと思って発言する。移住したが、土地を借りて家を建てて住んでおり、お米も作り始めて 3 年経った。不便を感じているのが、もみから精米できる精米機が瑞浪と中津川にしか見つけられていない。近所でも親世代になったらもうやらないという人がたくさんいる。うちはさまざまな担い手がつながっているところに出てくるエゴマを、耕作放棄地の農高と地場の土木業を育てるプロジェクトにも参加してい

る。地域外の人にもボランティアで 5、6 家族が来て月 1 回ぐらい作業をしている。農高の子たちのプレゼンテーションもすばらしく、英語でのプレゼンテーションもやっていて、こういう力をつけていってほしいと思っている。小さい単位で、田んぼは貸してくれている地主がアドバイスして、小さい 4 分の 1 枚ぐらいのものを、3 人で 1 年食べていける。

今後、コロナのこともあり物価も高くなっている中で、自分たちが食べられるものを育てていける環境があるのになかなかしにくい。苗はみなさんにいただいているが、ゼロからは難しいが、そういった小規模で食べていけるような仕組みを打ち出していただけると、耕作放棄地、子どもの教育的な、地域への愛着、そういったことも大事に、大人になってから分かることかもしれないが、とてもいい影響があると感じている。最近ニワトリを 2 羽飼いだした。

■事務局（農林部長） エゴマのプロジェクトでは地域と田口建設、農高と連携して 1 つの耕作放棄地の解消の象徴としてのプロジェクトで、ありがとうございます。この和も広がりつつあり、どんどん広げていって地域の方とともに耕作放棄地を解消もしていきたい。

コロナ禍では外出自粛もあり家庭菜園にも目が向きつつある。しかし、残念ながら家庭菜園に対しての市の育成の準備はしていない。業としてやる農家への支援をしている。鳥獣害の被害もあり、家庭菜園でも地域の人をまとめてくれれば、被害防止も行なっている。地産地消で地域の皆さんで食べていただくというほうで支援していきたい。

■会長 評価シートが一番上にアルファベットがある。昨年度と今年度で評価が並んでいて、通常こういう評価だと、評価が落ちたところ、特に D まで落ちたところ、そういうところについては残りの期間でぜひ上がっていくように頑張ってもらいたい。1 つだけあった A がなくなったとか。全体として見て、A が増えるように、落ちたところが上がるように、残りの期間で頑張ってもらいたい。コロナの中で大変だったと思うが。

予定時間は過ぎているが、もう一つ議題があるので、2 つめの議事に移る。

（3）地方創生交付金事業の事業評価について

■会長 4 つ事業があるがまとめて説明いただく。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 質問、意見はあるか。

■鈴木委員 恵那くらしビジネスサポートセンターについて意見を述べる。副市長から、プレミアム商品券やカックチケットの話を聞いた。経済対策は非常に派手で政府も検証しやすい。ところが雇用対策は非常に地味だし検証が難しい。その成果をどのように測るかとなると、極端なことを言うと 10 年、20 年先の話になる。雇用対策は継続して行っていくことが非常に重要だと私は思っている。これを行うことで、成果としてどこにつながるかということ、人口や、恵那市総合計画推進委員会の説明にあるように、施策評価シート

でもよく出てくる言葉で、若い世代の参加率を上げるというところにもつながってくると思う。雇用対策、中学・高校での企業説明会を開催し生徒 501 人参加とあるが、これをどのように評価するか。となると、これを行なっただけでは成果はすぐには上がらない。しかしこれを 10 年、20 年かけて行うことによって、いつか恵那市に若者が戻ってきて生活をしてくれることにつながると思う。ぜひこの事業は今後も引き続き行なっていただきたいと強く思う。

■会長 前向きな意見をいただいた。

事業については以上とする。まだ発言していない人もあるので、意見があれば。

■中島委員 感想、意見。各項目について、計画を作ったときから時間も経過していて、C、Dといった評価にこだわることも大事だが、着実に案件を実行していくのが一番いいと思う。私は金融機関なので商業観光分野で一緒にやらせていただいているところも多い。コロナ禍でさくらシンポジウムやオリンピックの事前キャンプは中止になったが、他市町村に比べて機動的で速いし、施策もしっかり打っているので非常にいいと思っている。

コロナの緊急経済対策も他の自治体より先駆けてやられており、まだ観光事業者や飲食店には十分ではないとは思いますが、スピーディーで評価もいただいていると思う。

ビジネスサポートについては、業種によっては余剰人員が出てくるので、不足している業種に就職支援をしていくことも必要だと思っている。

■会長 ほかに意見は。

■鈴木委員 ハローワークでは市内の外国人労働者の届け出が 900 名弱。5 万人弱の中で住民登録している外国籍の人は 600 強いると思う。政策評価の中で、基本目標、生命と財産を守るという部分は、最も重要であると私は考えている。命があつてのもので、命がなければ仕事もできない。検証する際に大いに成果を求められるところだと思う。外国人に対する災害から身を守るという部分については、海外の方々だと全く日本語の話せない人もいるだろうし、そういう人がこのアンケート調査に含まれているのか。

■事務局 アンケートは外国人は対象にしていない。住民票がある人もあるが、抽出なので恣意的に外国人を入れるということはしていない。

■鈴木委員 恵那市は人口 5 万人弱で、非常に濃密な人間関係のある地域だと私は思っている。たとえば緊急避難場所を知っている市民が 84.8%、これは極端に言うと、恵那市内で隣に誰が住んでいるか知らないなどは、確かにあるかもしれないが、そういうケースはどちらかというとな少ないと思う。外国籍の人が 600 人強いるので、こういう方の生命と財産を守る、災害から身を守るということは非常に重要だと思うので、外国人に対する対応を少し考慮していただきたい。

■事務局 承知した。

■会長 よろしくをお願いします。

■岩井委員 防災の立場として。外国人の防災研修をやっている。年に 1 回程度。避難場所や、派遣元の社長とも交流しながらやっている。本年度はコロナでそれができない。我々も地団太を踏んでいる。補足だ。

■会長 ほかにあるか。

本日の議題は審議が済んだということで事務局に返す。

7. その他

■事務局（進行） 次回は来年 3 月を予定する。地方創生交付金の事業が年度内に終了する。今回は前回の 3 月に予定していたものを今日やった。今日いただいた意見を参考にし令和 3 年度事業にできる限り反映したい。その結果を年明けの 3 月に説明したい。

8. 閉会

■事務局（進行） 副会長から御挨拶をお願いします。

■副会長 熱心な討議ありがとうございました。意見に真剣に耳を傾けてくださったことにもお礼申し上げます。恵那市の幹部の方々が集まっているが、恵那市がたくさんの施策を知恵を絞って打ち出し、その施策について事業についてやりっぱなしではなく数値目標を上げて効果を検証していこうという姿勢が伝わってきた。今日から委員は審議委員としての活動がスタートするので、今日の話題になったことや、広報えなを読んだり、地域の方の意見に耳を傾け、次回の会議に来ていただきたい。みんなで恵那市の行政を応援できたら嬉しい。御苦労さまでした。

[閉 会]